

零相変流器の平衡特性

零相変流器の特性が悪い場合には、残留磁束の影響で遮断器が誤動作する場合があります。このようなことがないように、JIS C8371では下表のように不動作の限界を定格電流の倍数で規定しています。

テンパールの零相変流器は、いずれも表の数値以上の特性をもっておりますので誤動作はありません。

電動機の Δ - Δ 起動等過渡突入電流の特に大きな負荷にはこの点を十分考慮する必要があります。

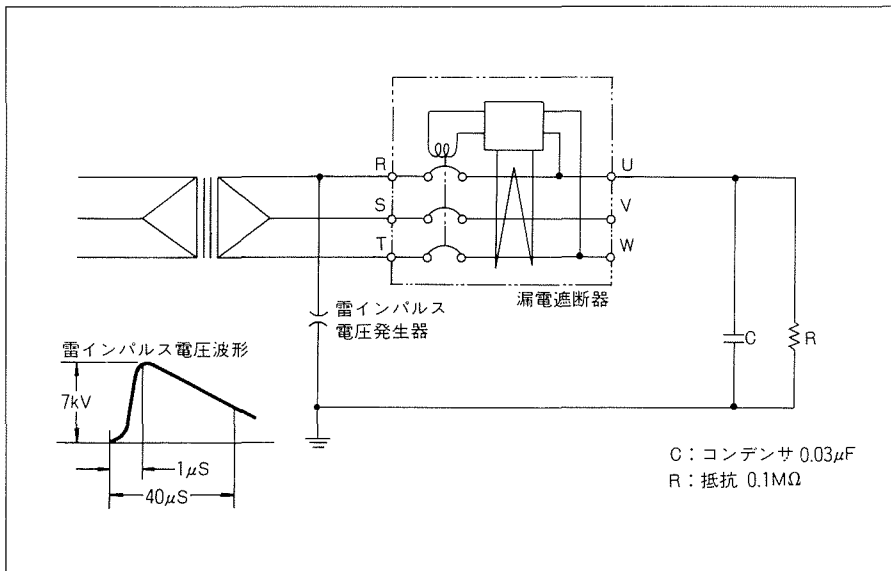
種類	定格電流	試験電流
単相用	600A以下	定格電流の6倍(最小150A)
	600Aを超えるもの	定格電流から600を引いた値の2倍に3600を加えた値
三相用	50A以下	定格電流の8倍(最小150A)
	50Aを超え600A以下	定格電流の6倍
	600Aを超えるもの	定格電流から600を引いた値の2倍に3600を加えた値

雷インパルス不動作性能（衝撃波不動作性能）

全器種衝撃波不動作形ですので外雷の侵入や、誘導負荷の開閉サージ等で誤動作することがないように、強力な回路構成となっております。ご安心してご使用いただけます。

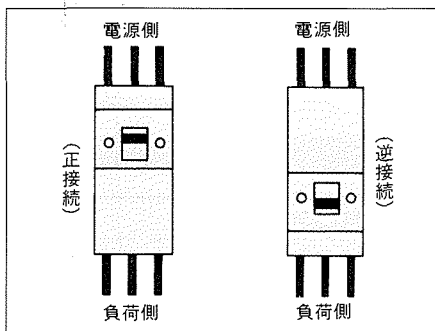
JIS規格で決められている7kV、 $1 \times 40 \mu\text{S}$ の雷インパルスに対し十分耐える性能をしております。

雷インパルス不動作試験回路/JIS C8371



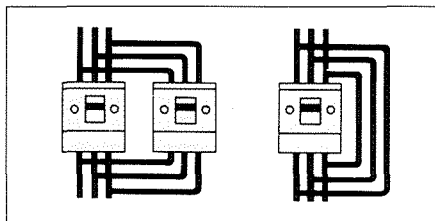
逆接続

漏電遮断器に「電源側」と「負荷側」との区別がある器種は逆接続ができません。逆接続不可の器種において逆接続をいたしますと、漏電遮断器が動作した場合、トリップコイルの焼損等事故につながりますのでご注意ください。



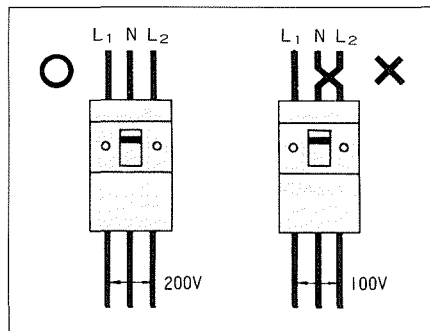
並列接続・バイパス接続

並列接続、バイパス接続は漏電遮断器が誤動作し、トリップコイルが焼損しますのでご注意ください。



単相3線式回路への接続

単相3線式回路へは単相3線式専用漏電遮断器はもとより三相3線式漏電遮断器でも適用できます。単相3線式回路での注意点は電圧線相互間の電圧と、中性線と電圧線間の電圧とが異なる点です。漏電検出装置の電源を遮断器内部において左右極から、とっておりますので適切な電圧（200V）がかかるよう接続しなければ、正常な動作は行いません。ご注意ください。



共通接地

複数の電動機回路等において、漏電遮断器を取付けた電動機と、取付けない電動機のアース線を共用にいたしますと、万一漏電遮断器を取付けていない方の電動機で漏電があった場合、その対地電圧が共通接地線を通じて、漏電遮断器のある方の電動機に

も危険電圧が生じることになります。この時は、その漏電遮断器は動作しませんので、大変危険です。このように共通接地をとった機器については、全回路へ漏電遮断器を取付けなければなりません。

